

科目	音楽基礎	単位数	2	学年	3	学級	A~H 選択者	学科	普通科 国際教養科
----	------	-----	---	----	---	----	------------	----	--------------

学習の到達目標	<p>○音楽を理論的な側面から学習し、音楽の構造・仕組みや形式を理解します。</p> <p>○現在鳴っている音がどの音なのか、またどのようなリズムで鳴っているのか、それを正確に聴き取り、楽譜に記譜できる能力を身につけます。</p> <p>○簡単な旋律を目譜し、何調であるか、どのようなリズム形式であるのか、などを頭上で理解した上で実際に声に出して譜面通りに歌える能力を身につけます。</p>
使用教科書 副教材等	<p>○音楽 I Tutti(教育出版)</p> <p>○楽典<理論と実習>(音楽之友社)</p>

学期	月	学習項目			学習内容の説明		
前期	4	授業ガイダンス			音楽基礎の学習内容、授業の受け方、評価方法を理解します。		
	5	楽典 ○譜表と音名 ○問題	聴音 ○旋律聴音 ○リズム聴音 ○和声聴音	新曲視唱 ○旋律視唱	楽典 譜表と音名、音符と休符、リズムと拍子の説明をうけながら、例題等を解いていく過程で理解します。	聴音 最初は簡単な聴音から出題し、聴き取るコツをつかみ、音に慣れていきます。	新曲視唱 最初は簡単な新曲から出題し、視唱のコツを感じ取り、新曲に慣れます。
	6	○音符と休符	以上、三本立てで展開		必要に応じてポピュラー音楽理論と関連付けて学習します。		
	7	○問題					
	8	○リズムと拍子					
9	○問題						
後期	10	楽典 ○音程 ○問題	聴音 ○旋律聴音 ○リズム聴音 ○和声聴音	新曲視唱 ○旋律視唱	楽典 音程、音階、和音、表示法の説明をうけながら、例題等を解いていく過程で理解します。	聴音 前期より難易度の高い聴音を聴き取れるようにします。	新曲視唱 前期より難易度の高い新曲を視唱します。
	11	○音階 ○問題	以上、三本立てで展開		必要に応じてポピュラー音楽理論と関連付けて学習します。		
	12	○和音 ○問題					
	1	○表示法 ○問題					
	1	○楽典、聴音、新曲視唱の総まとめ			楽典、聴音、新曲視唱の総合的な理解をします。		
	2						
	3						

評価の観点及び評価の方法	音楽への関心・意欲・態度	○音楽を様々な観点から捉え、興味関心を高めているか。
	音楽表現の創意工夫	○楽曲・音楽ジャンルの特質を良く知覚した上で、それが生み出す曲想や美しさを感じ取って表現の工夫をしているか。
	音楽表現の技能	○楽曲から感じ取ったイメージを創造的に表現する技能を身に付けているか。
	鑑賞の能力	○鑑賞教材の演奏法、文化的背景を理解し楽曲を聴き取っているか。
	評価方法	○授業中の参加態度 ○プリント、ノート、レポート等の提出状況及び内容 ○出欠状況や遅刻・忘れ物状況 ○実技・筆記テスト

担当教諭から	音楽を基礎的・根本的に理解するには、音楽理論の学習は不可欠です。音楽がどのような仕組み、法則に従って創られているのかを理解することにより、音楽の幅は一段と広がります。基礎を理解した上で音楽に触れるのと、してないで触れるのでは同じ音楽でも捉え方、楽しさが全く異なります。学習的要素が多くなるので難しいとは思いますが、更に深く専門的に音楽を追究していきましょう。
--------	---